

## 御国の福音

### 第9回：エレミヤ書と御国の計画（後編）<sup>1</sup>

#### 目次

はじめに p. 2

I. 新しい契約（30-33章） p. 3

A. はじめに

B. 回復の約束（30章）

C. 新しい契約（31章）

D. 御国における霊的・物質的祝福（32:36-44）

E. 祝福の土台：無条件契約（33章）

エレミヤ書における御国の計画のまとめ p. 13

## はじめに

### A. 預言書と御国の計画

1. 「神の御国／王国」(the kingdom of God) の計画について学んでいる。御国の計画は、聖書を貫く軸である。

### B. エレミヤ書について

1. エレミヤは南王国ユダの善王ヨシヤの治世(紀元前627年)に預言者として召され、バビロン捕囚直後(紀元前582年頃)までの約45年間活動した。
2. エレミヤの預言の内容
  - (1) ユダへの裁きの警告
  - (2) 諸国民への裁きの警告
  - (3) ユダと諸国民の希望の預言
3. 前回学んだ主な内容
  - (1) イスラエルはモーセ契約への不従順により裁かれ、散らされる。
  - (2) イスラエルは再びひとつとなり、祝福される。祝福には約束の地への帰還とエルサレムの祝福が含まれている(3:12-18)。
  - (3) イスラエルは主に立ち返ることによって、諸国民を祝福するという本来の役割を果たすようになる(4:1-2)。
  - (4) イスラエルの将来の帰還は、彼らにとって出エジプト以上の経験となる(16:14-15)。
  - (5) 神は、イスラエルの民のレスポンスを尊重され、応答される(18:1-11)。
  - (6) イスラエルの回復は、王なるメシアによってもたらされる(23:1-8)。
4. 今回は、30-33章の「新しい契約」に関する預言を重点的に学ぶ。

## VI. 新しい契約 (30-33 章)

### A. はじめに

#### 1. エレミヤ書 30-33 章について

- (1) 1-29 章には希望の預言があったが、大部分はユダの裁きに重きが置かれていた。
- (2) 30-33 章は、裁きの後に何が起こるのかについて、大いなる希望を与えてくれる。ゆえに、30-33 章は「慰めの書」と呼ばれている<sup>2</sup>。
- (3) エレミヤ書 30-33 章の文脈
  - a) おそらく、30-33 章のメッセージは、エルサレムがバビロンの軍勢に包囲されていた頃に与えられたのだろう (32:1-2)<sup>3</sup>。
  - b) エレミヤはエルサレムがバビロンによって滅ぼされると預言したことで、ユダの王ゼデキヤによって監禁されていた。
  - c) 30-33 章は、絶望的と思われる状況の中で与えられた、希望と慰めの預言である。
- (4) エレミヤ書におけるイスラエルへの希望のメッセージの要約<sup>4</sup>
  - a) イスラエル民族の永遠性
  - b) 異邦人の救い
  - c) イスラエル全体に新しい契約が与えられる
  - d) ダビデ的王によるシオンの統治

#### 2. 新しい契約について

- (1) エレミヤ書に一貫して見られるテーマのひとつは、南王国ユダへの裁きである。この裁きは、モーセ契約に対するユダの不従順によるものである。
- (2) 「民の契約への不従順による裁き」とは対照的に、神は無条件契約への忠実さによって、民の回復をもたらされる。
- (3) 「契約」を軸としている文脈において、民に回復をもたらす「新しい契約」の預言が語られる。
- (4) 「新しい契約」の預言は、イザヤ書 59:21 で語られていたことの発展である。イザ 59:21 「これは、彼らと結ぶわたしの契約である。——**主**は言われる——。あなたの上にあるわたしの霊、わたしがあなたの口に置いたわたしのことばは、あなたの口からも、あなたの子孫の口からも、子孫の子孫の口からも、今よりとこしえに離れない——**主**は言われる。」

## B. 回復の約束（30章）

### 1. 「慰めの書」と土地の回復

- (1) 「慰めの書」(エレ 30-33章)全体は、イスラエルの回復の約束で始まっている。  
30:3「見よ、その時代が来る——**主**のことば——。そのとき、わたしはわたしの民イスラエルとユダを回復させる——**主**は言われる——。わたしは彼らを、その父祖に与えた地に帰らせる。彼らはそれを所有する。」
- (2) 30:3で強調されている「回復」の内容は、「父祖」に約束された地にイスラエルが帰還すること、そしてその土地を所有することである。
- (3) 「慰めの書」全体（新しい契約の文脈）は、土地の約束と密接に関係している。
- (4) 「慰めの書」は、イスラエルに裁きが下ったとしても、将来ヤハウエはアブラハム契約を成就してくださるとい希望のメッセージを語っている。

### 2. ヤコブの苦しみの時

- (1) 23:7-8では、土地の約束の成就が、メシア的王の到来と結びつけられていた（前回の学び参照）。すなわち、土地の約束は、御国（メシア的王国）で成就する。
- (2) 土地の約束が成就する前に、イスラエルは苦難の日を通過する。  
30:7「災いだ、その日は大なる日／このような日はほかにはない。ヤコブの苦しみの時だ／しかし、ヤコブはここから救い出される。」（新共同訳）
- (3) イスラエルにおいて御国の計画が成就する前には、裁きとして災難と災いもたらされる。
  - a) 参照：イザ 24-25章；ダニ 12:1-3；マタ 24章；黙 6-19章。
  - b) この「日」は「ヤコブの苦しみの時」と呼ばれている。
  - c) この「日」は、エレミヤ書も含め、様々な預言書において「**主**の日」（ヤハウエの日）と呼ばれている。（詳しい期間はダニエル書で明かされる。）

### 3. 苦難の後にもたらされる御国の祝福

- (1) イスラエルの子孫が捕囚の地から救われる (30:10)。
- (2) イスラエルを苦しめた国々が裁かれる (30:11)。
- (3) イスラエルの傷が癒される (30:17)。
- (4) イスラエルの都が再建される (30:18)。
- (5) イスラエルは神の民となり、神はイスラエルの神となる (30:22)。

## C. 新しい契約 (31 章)

### 1. 31 章は、全体に渡ってイスラエルの回復が宣言されている。

31:1-30：イスラエルの物質的祝福の強調

- (1) 「イスラエルのすべての部族」が神の民となる (31:1)。
- (2) イスラエルは建て直される (31:4)。
- (3) イスラエルは国家的／民族的に喜びで満たされる (31:4-6)。
- (4) イスラエルは地の果てから集められる (31:8)。
- (5) 農作物と家畜が豊かに与えられる (31:12)。
- (6) イスラエルでは若者も老人も喜びで満たされる (31:13)。
- (7) イスラエルの悲しみは除かれる (31:16)。
- (8) イスラエルはかつて先祖の咎により苦しんだが、もはやそれによって苦しむことはない (31:29-30) <sup>5</sup>。

### 2. 31:31-34：新しい契約に関する詳細な啓示

- (1) イザヤ書までの復習：イスラエルの霊的・物質的回復がもたらされるためには、彼らの心の問題が解決される必要がある。
  - (2) イザヤ書における「新しい契約」の伏線
    - a) イスラエルの罪は、ヤハウエのしもべ(メシア)によって贖われる (53 章)。
    - b) イスラエルの心の問題は、神がイスラエルと新たな契約を結ぶときに解決される。その時、聖霊は民から離れず、民の口からは神が置かれた言葉が離れなくなる (59:21)。
    - c) 以上のことから、メシアの贖いと新たな契約は関係していると推測できる。

- (3) 「イスラエルの家およびユダの家」、すなわちイスラエルの民全体に「新しい契約」が与えられる（31:31）。
  - (4) イスラエルはモーセ契約を破った。新しい契約は、モーセ契約とは異なるものである（31:32）。
  - (5) 新しい契約によって、神の律法が心の中に書き記される（31:33）。
    - a) モーセ契約自体は聖なる良い契約だったが、その契約自体にはイスラエルを神に従わせる力はなかった。
    - b) 新しい契約は、イスラエルが神に従うための力を与えるものである。
  - (6) 新しい契約は、イザヤが預言した「ヤハウエのしもべ」であるイエスの贖いの血によって締結された。
    - a) ルカ 22:20「食事の後、杯も同じようにして言われた。『この杯は、あなたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。』」
    - b) メシアの贖いの御業が、イスラエルの心の問題を解決するための土台となった。
    - c) 今は、メシアにあるユダヤ人信者と異邦人信者の両方が、新しい契約がもたらす霊的祝福（罪の赦し、聖霊の内住など）に与っている恵みの時代である。
    - d) なお、エレミヤ書 31 章の文脈からいうと、イスラエルにとっては、この契約の祝福には物質的祝福も含まれている。
3. 31:35-37：新しい契約の保証
- (1) 太陽、月、星が存続していることは、新しい契約によってイスラエルが救われることの保証である（31:35-36）。
  - (2) 宇宙全体と地の基もまた、新しい契約の成就を保証するものである（31:37）。
  - (3) 以上のことは、神のご計画におけるイスラエル民族の永続性を強調している。

#### 4. 31:38-40：新しい契約とエルサレムの再建

- (1) 31:38-40 に登場する地名等は、エルサレムを指すものである。
- (2) 新しい契約が完全に成就する時、エルサレムは再建される。これは、神のご計画におけるエルサレムの重要性を示している。エルサレムは、メシア的王国の首都である。

### D. 御国における霊的 & 物質的祝福 (32:36-44)

#### 1. 32 章の文脈

- (1) バビロンによるエルサレムの包囲下で、エレミヤはゼデキヤ王により監禁された (32:1-5)。
- (2) エレミヤはアナトテ (エルサレムの南東にあるベニヤミン族の地) にある畑を親族から買い戻した。これは、将来イスラエルが離散させられた後に帰還し、土地を所有するようになるというメッセージを象徴する行為であった (32:6-15)。
- (3) 一方でエレミヤは、現在のエルサレムの状況と神の約束の内容があまりにも違うために困惑し、神に祈った<sup>6</sup> (32:16-25)。
- (4) 神はエレミヤの祈りにお答えになった (32:26-44)。
  - a) 32:26-29：エルサレムはバビロンによって滅ぼされる。それは、ユダの住民たちが偶像崇拜により神の怒りを引き起こしたからである。
  - b) 32:30-35：イスラエルの民は王、首長、祭司、預言者、住民たちに至るまで、神に逆らって歩み続けた。そのため、彼らは神の裁きを通過する。
  - c) 32:36-44：しかし、神の裁きを通過した後、民は約束の地に回復させられる。

#### 2. 32:36-38：回復の宣言

- (1) エレミヤの祈り
  - a) イスラエルはモーセ契約に従わなかったため裁かれる。その裁きによって、エルサレムは滅びようとしている。
  - b) なぜ、裁きが下ろうとしている只中で、神は畑を購入するようお命じになったのか。

- (2) エレミヤの祈りに対する神の回答の第1段階は、イスラエルの不信仰と裁きを確認するものであった（32:26-35）。
  - (3) 神は回答の第2段階として、滅ぼされようとしているエルサレムについての預言をお与えになる（32:36）。
  - (4) エルサレムは滅ぼされるが、将来神はこの状況を逆転させられる。散らされた民は約束の地に集められ、安らかに住まわせられる（32:37）。
  - (5) かつては不従順だったイスラエルが神に立ち返る（32:38）。
3. 32:39-41：新しい契約の確証
- (1) イスラエルの心の問題が解決される。その解決は神ご自身がお与えになる（32:39）。
  - (2) この解決は、神が「永遠の契約」すなわち新しい契約をお与えになることによってもたらされる（32:40）。
  - (3) 神はイスラエルに、新しい契約を通して、ご自身への恐れをお与えになる。恐れは民に幸せと喜びをもたらす（32:39-41）。
4. 32:42-44：物質的祝福の約束
- (1) 裁きは非常に大きかったが、それと同規模の「幸せ」がもたらされる（32:42）。
  - (2) 民は約束の地で土地を買うようになる（32:43-44）。神がエレミヤに命じられた行動は、この希望を象徴するものだった。
  - (3) 新しい契約の祝福において、イスラエルに対する霊的祝福と物質的祝福はセットである。
    - a) 霊的祝福：新しい心をもって、神の御前で正しく歩めるようになる。
    - b) 物質的祝福：彼らは物質的にも豊かに祝福される。



## E. 祝福の土台：無条件契約（33章）

### 1. 「慰めの書」の総まとめ

(1) エルサレムの包囲中、エレミヤがまだ監禁中に与えられた預言である（33:1）。

(2) これまでの学びで、以下の無条件契約に言及してきた。

- a) ノア契約
- b) アブラハム契約
- c) ダビデ契約
- d) 新しい契約

(3) ここでは、以上の無条件契約が、イスラエルの回復とどのように関係しているかが説明されている。

### 2. 33:2-7：創造主による宣告

(1) 「慰めの書」最後の章は、神が創造主としての宣告をお与えになることで始まっている。

33:2-3「地を造った**主**、それを形造って堅く立てた**主**、その名が**主**である方が言われる。『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』」

(2) 「あなたが知らない理解を超えた大いなること」とは、裁きを受けるイスラエルが、将来回復させられるということである（33:4-7）。

(3) 「**主**」（ヤハウェ）という御名が繰り返されている。この御名は、神が契約に忠実な方であることを示すものである<sup>7</sup>。

(4) イスラエルにとって、ヤハウェが創造主であるということは、この預言が必ず成し遂げられるという希望を強めてくれる。

(5) 続いて、イスラエルの回復の希望を確認するものとして、神がお与えになった無条件契約が次々と列挙されていく。

3. 33:8：新しい契約

(1) 33:8「わたしは、彼らがわたしに犯したすべての咎から彼らをきよめ、彼らがわたしに犯し、わたしに背いたすべての咎を赦す。」

これは、新しい契約についての預言で約束されていた内容である。

(2) 新しい契約に基づいて、イスラエルの咎が赦される。すなわち、イスラエルの回復は新しい契約に基づいたものである。

4. 33:14-18：ダビデ契約

(1) ダビデ契約は、神がイスラエル全体にお与えになった「いつくしみの約束」である（33:14）。

(2) ダビデ契約の内容

a) ダビデの子孫からメシア的王が出る（33:15a）。

b) 王は「地」において公正と義を行う（33:15b）。

c) 王はユダを救い、エルサレムを再建する（33:16）。

d) 王は、ダビデに約束されていた永遠の王座を確立する（33:17）。

(3) ダビデ契約に基づいて、メシア的王がイスラエルに回復をもたらす。すなわち、イスラエルの回復はダビデ契約に基づいたものである。

5. 33:18：祭司への約束（契約）

(1) レビ人の祭司たちは絶えることがないという約束が与えられている（33:18）。

a) 現在、メシアの十字架によってモーセ契約が成就したため、レビ的祭司制度はなくなった（ヘブル人への手紙7章参照）。

b) しかし将来、メシア的王国においては、レビ族が再び祭司となる。

(2) この約束は、アロンの孫ピネハスが「永遠の祭司職の契約にあずかる」という民数記25:10-13の記述に基づいているかもしれない<sup>8</sup>。

- (3) イスラエルの回復に見られる裁きから祝福への逆転
- a) 民は悪を行ったので裁かれるが、その後で回復させられ、祝福を受けて増し加えられる。
  - b) 民の悪のゆえに、彼らが所有していた地も荒れ果てる。しかし、その後で回復させられ、祝福を受けて豊かになる。
  - c) ダビデ家の王たちもまた悪を行ったので裁かれるが、その後でダビデの王座はメシアによって回復させられ、永遠に確立される。
  - d) 祭司たちもまた悪を行ったので裁かれるが、メシアの統治下で回復させられ、祝福の中で祭司として仕えるようになる<sup>9</sup>。
  - e) 直近の文脈では、王と祭司の悪行と裁きについても言及されていた(32:32)。
  - f) 「慰めの書」はこれまで、民全体と土地について、回復(裁きから祝福への逆転)を教えてきた。
  - g) イスラエルの民族的回復には、彼らの王と祭司たちの回復(裁きから祝福への逆転)も含まれている。それらは、ダビデの子であるメシアによってもたらされる。

#### 6. 33:19-21：ノア契約

- (1) ダビデ契約およびレビ的祭司の約束の成就是、神が「昼と結んだ契約」および「夜と結んだ契約」に基づいている(33:20-21)。
- (2) ノア契約には、「この地が続くかぎり、……昼と夜がやむことはない」という内容が含まれていた(創8:22)。
- (3) ダビデ契約およびレビ的祭司の約束が成就するための土台は、ノア契約である。よって、ダビデ契約がもたらすメシア的王国、そしてメシアがもたらす新しい契約の成就是、ノア契約によって保証されている。
- (4) 昼と夜という自然のパターンが続いていることから、私たちは、神がイスラエルを回復させられるのは確実なのだを知ることができる。

7. 33:22：アブラハム契約

- (1) ダビデ契約、新しい契約、およびレビ的祭司の約束は、ノア契約によって成就が保証されている。
- (2) ダビデ契約や新しい契約の成就とは、すなわちアブラハム契約の成就である。
- (3) 以上の事柄が成就することで、ダビデの子孫とレビの子孫が「海の砂」のように増え広がる。
- (4) これは、アブラハムの子孫が「海辺の砂」のように増え広がるというアブラハム契約の内容（創 22:17）と対応している。

8. 33:25-26：結論

- (1) アブラハム、イサク、ヤコブの子孫の中から、彼らを治めるためにダビデの子孫が選ばれた（33:26a）。これが、アブラハム契約とダビデ契約の関係である。
- (2) ダビデ王朝によるイスラエルの統治は、裁きによって終わろうとしている。しかし、その統治は回復させられる（33:26b）。この回復は、イスラエルに対して新しい契約が成就する時にもたらされる。
- (3) 以上のことは、「昼と夜」との契約、すなわちノア契約によって保証されている。
- (4) 「慰めの書」の結論  
神の御国の計画は、アブラハム契約、ダビデ契約、新しい契約を軸として展開されていく。そして、その成就是ノア契約によって保証されている。

## エレミヤ書における御国の計画のまとめ

1. 南王国ユダはモーセ契約に不従順だったため、裁き（バビロン捕囚）を経験する。
2. 神はアブラハム契約への忠実さにより、イスラエルの民を集め、約束の地に回復させられる。イスラエルはその地で永遠に繁栄と平和を享受する。
3. 新しい契約は、イスラエルが霊的 & 物質的に回復させられることを保証している。
4. イスラエルの回復によって、諸国民の祝福ももたらされる。
5. 以上のことは全てアブラハム契約やダビデ契約の成就である。
6. アブラハム契約、ダビデ契約、新しい契約の成就是、ノア契約によって保証されている。
7. エレミヤ書はイスラエルと諸国民に対する徹底的な裁きを宣告している。しかし、その中心には「神は必ず無条件契約を守られる」という希望のメッセージがある。

---

<sup>1</sup> 本講義は以下のテキストに基づく。Michael J. Vlach, *He Will Reign Forever: A Biblical Theology of the Kingdom of God* (Silverton, OR: Lampion Press, 2017), 179–91.

<sup>2</sup> F. B. Huey Jr., *Jeremiah*, The New American Commentary (Nashville, TN: B&H, 1993), 260.

<sup>3</sup> Charles H. Dyer and Eva Rydelnik, "Jeremiah," in *The Moody Bible Commentary*, eds. Michael Rydelnik and Michael Vanlaningham (Chicago: Moody, 2014), 1155.

<sup>4</sup> Charles L. Feinberg, "Jeremiah," in *The Expositor's Bible Commentary*, ed. Frank E. Gaebelin (Grand Rapids, MI: Zondervan, 1986), 6:558.

<sup>5</sup> Huey, 279.

<sup>6</sup> Dyer and Rydelnik, 1156.

<sup>7</sup> *Ibid.*, 1157. 出 3:13–35 参照。

<sup>8</sup> Tremper Longman III, *Jeremiah, Lamentations*, Understanding The Bible Commentary (Grand Rapids, MI: Baker, 2008), 222; Dyer and Rydelnik, 1159; Irvin A. Busenitz, "Introduction to the Biblical Covenants: The Noachic Covenant and the Priestly Covenant," *The Master's Seminary Journal* 10/2 (Fall 1999): 188. なお、民数記 25:10–13 に書かれている契約については、「祭司契約」(the Priestly Covenant) という独立した無条件契約と考える学者もいる (Busenitz, 186–89)

<sup>9</sup> Cf. Longman, 223.